

## 第8回都市計画審議会 会議録（要旨）

1.日時 平成22年3月2日（火）13：00～15：40

2.会場 市役所301会議室

3.審議事項 なし

4.報告事項

(1) あわら市景観基本計画（中間報告）

(2) JR 芦原温泉駅周辺整備事業

(3) 都市計画道路金津三国線

5.資料

会議次第

- ・ あわら市景観基本計画（中間報告）
- ・ JR 芦原温泉駅周辺整備事業
- ・ まちづくり交付金事後評価シート

6.出席委員

1号委員（学識経験者） 川上洋司（会長） 八木耕作 佐藤美保子

2号委員（市議会議員） 森 之嗣 笹原幸信 卯目ひろみ 杉田 剛

3号委員（関係行政機関） 杉原忠弘 川端智雄 小林修

事務局（幹事） 長谷川忠則（土木部長） 佐々木賢（土木部理事）

（事務局） 木下勇二（建設課長） 堀江与史朗（建設課参事）

竹山佳克（建設課主査） 池神雄一（建設課技師）

7.会議

事務局 開会、委員紹介

会長 本日は審議事項がないので、現在進められている都市計画事業について報告を頂く。

事務局 あわら市景観基本計画（中間報告）について説明

会長 委員に意見・質問を求める。

委員 土砂採取場の跡地は後処理がなく景観が悪いが、このことについてどう考えているのか。

事務局 土砂採取は県の許可制であり、その中で後処理の指導を行っている。

委員 景観計画では対応できないのか。

- 会長 今後の土砂採取については景観計画で対応可能である。しかし修復については別途対応が必要である。
- 事務局 景観計画を基に少しでも規制ができればよい。それと併せて現状の回復も関係機関にお願いしていく。
- 会長 土砂採取の制約条件を作ることはできる。
- 委員 計画を作ることより、実際に街に生かすことが大事である。市民を育てる必要がある。
- 事務局 施行時には住民との話し合いの積み重ねが大事である。
- 会長 市民の意識をあげていくことが重要である。
- 
- 事務局 JR 芦原温泉駅周辺整備事業について説明。
- 会長 委員に意見・質問を求める。
- 委員 にぎわい交流広場とはどのような内容か。
- 事務局 新幹線開業に向けての集客設備ということで、今回は土地取得と植栽等の最低限の整備を考えている。
- 委員 市道 105 号線の将来計画はどのようなになっているのか。
- 事務局 80m が今後 3 ヶ年の計画である。その先は JR の施設があり、また高塚跨線橋、新幹線ルート問題もあり、新幹線の工事認可が出るまで JR とは正式協議ができないため、少し時間がかかる。
- 会長 にぎわい交流広場は暫定利用しながら、市民と共に、新幹線が来る頃に向けて活用を考えていけばいい。今までのように箱物をつくるだけでは持て余すことになる。市民開放型で利用しながら使い方を考えていけばいい。
- 
- 事務局 都市計画道路金津三国線について説明。
- 会長 委員に意見・質問を求める。
- 委員 金津市街地と芦原市街地を結ぶ重要な幹線であり、坂井市とあわら市を繋ぐ観光道路としても重要になってくる。
- 会長 道路としてだけではなく、景観計画を作るならば、沿道景観としても考えていただきたい。
- 事務局 農地保全ゾーンとの兼ね合いのため市街化は難しい。
- 会長 景観とは市街化を抑制するという意味である。農地法だけの縛りではなく、景観として規制をかけていければいい。
- 委員 沿線が混雑状態にならないよう景観を含めた規制をしていただきたい。

- 会長 報告を受けた3件以外に質問はないか。
- 委員 市道芦原金津線の並木について、旧芦原町役場より金津側はよい並木になっているが、芦原側は樹形が悪い。このことについて、どう考えているか。
- 事務局 樹種は、金津側が「アメリカフウ」であり、芦原側が「トウカエデ」である。トウカエデの剪定ですが、市も限られた予算の中で作業を行うため専門業者に任せているわけではない。他の路線も含め樹形を整えながら管理していきたい。
- 会長 まちづくり大賞を獲った各務原市では、剪定は市民のボランティアが行っている。いいものを残していくためには全部行政に任せるのではなく、市民も参加していくことが大事である。
- 事務局 閉会